

令和3年 4月・5月臨時会、6月定例会

福井県議会だより

第33号

審議の様子は
YouTubeを
ご覧ください



臨時会・定例会の概要

4月23日に臨時会が開かれ、知事提出の新型コロナウイルス感染症対策関連の補正予算案を含め議案3件を可決または承認しました。また、40年超原子力発電所の再稼働に関する請願60件を審査し、立地地域の思いを十分踏まえた上での確かな判断を求める「原子力発電所の40年超運転に関する請願」を採択するとともに、原子力政策の方向性を明確にすること等を国に求める「エネルギー基本計画の見直し等に関する意見書案」を可決しました。

また、5月18日の臨時会では、常任委員会委員等の選任を行うとともに、知事提出の新型コロナウイルスワクチン接種の体制強化関連の補正予算案を可決し、監査委員の選任に同意しました。

6月定例会は6月15日に開会し、7月9日までの25日間にわたって審議を行いました。開会日には、議長、副議長選挙が行われ、鈴木宏紀議員が第103代議長に、宮本俊議員が第108代副議長に選出されるとともに、常任委員会等の構成の一部変更を行いました。また、JR西日本が県内ローカル線の減便等を行う方針を表明したことを受けて、「JR小浜線および越美北線の維持・活性化について国の積極的な

関与を求める意見書案」を可決しました。

今定例会では、JR小浜線、越美北線の減便にかかる対応策のほか、北陸新幹線敦賀開業後の特急存続を断念した場合の代替案や地域鉄道への支援の在り方などについて議論が集中しました。また、新型コロナウイルス感染症対策については、特にワクチン接種体制や観光事業者、中小企業者への支援策等について議論がなされ、6月24日の本会議において、県によるワクチン接種特設会場の増設等、緊急的に必要な経費に関する補正予算案を可決しました。

その他にも、エネルギー基本計画における原子力の位置づけ、核燃料条例、災害対策、農業政策、DXの推進、教育行政など県政全般にわたり広範な議論が行われました。

このような審議を経て、閉会日には、新型コロナウイルスワクチン職域接種への運営支援など追加上程された補正予算案を含む知事提出議案13件および「地域鉄道の存続に向けた国のさらなる支援を求める意見書案」について可決するとともに、請願2件についても採決を行い、今定例会に付議された案件の審議を終了しました。

議長・副議長インタビュー

◎就任にあたっての抱負をお聞かせください。

鈴木議長：県政の課題は山積していますが、特に喫緊の課題として、北陸新幹線敦賀開業に当たり、並行在来線区間への特急乗り入れ断念に伴う代替案について、いかに利便性を確保するかが大切です。加えて、越美北線と小浜線の減便、無人駅化の問題についても、JRに対策を求めるだけでなく国の積極的な関与を求めていくことが必要です。

もう一つは、新たに策定されるエネルギー基本計画の中で、原子力の位置付けについて明記することが必要です。40年超の原子力発電所について、原子力は将来にわたって持続的に活用していくという前提で議会は再稼働に事実上同意していますから、この点を国や与党に対して強く求めていかなければなりません。

そうした課題に対して、県民の皆様の声を吸い上げ、建設的で活発な議論を交わすことで議会の更なる活性化を図り、県民の皆様の負託にこたえていくことを目指したいと思います。

宮本副議長：小さな県ではありますが、議会として一つにまとまり、知事部局と一緒に国に対して働きかけを行っていくことが重要だと感じています。議長を助け、議会をリードしながらその方向性を打ち出していきたいと思っています。

◎趣味や座右の銘などありますか。

鈴木議長：趣味は旅行です。美味しいものを食べに行くことも好きです。福井県産のそばは、塩を振って食べると香りとかがわたり、美味しさが引き立ちます。

座右の銘は、四字熟語で言うと「胆大心小^{たんたいしんしょう}」。「心小」とは、相手の立場になって心配りし、物事を考えることです。そうすれば、自分の考えと全く違うことを相手が言っている程度受け入れられます。ただし、「胆大」ですから、県民益につなげなければならないような大きな課題については、はっきりと申し上げていく必要があると思っています。

宮本副議長：美味しいものはいいですね。B級グルメが好きです。それと、TVゲームも好きです。時間があるときは1時間以上することもあります。

座右の銘は、「走りながら考える」でしょうか。考えて動かないとか、考えて言い訳するなどしてしまいがちですが、考える前に動かないといけない、という自戒も含めて心の中に持っています。



左：鈴木議長 右：宮本副議長



審議の様子は
YouTubeを
ご覧ください

代表質問

福井県議会だより 第33号 | 3

県会自民党 仲倉 典克 議員



知事の政治姿勢について

- ・ 地域鉄道のあり方について、JR西日本が表明した小浜線と越美北線の減便等に対する知事の認識を伺うとともに、地域鉄道の維持・活性化に関する県としての対応策について、所見を伺う。
- ・ 北陸新幹線の整備に伴う特急存続問題について、特急存続を断念することに対する知事の見解と代替案を伺う。

県会自民党 力野 豊 議員



原子力・エネルギー行政について

- ・ 政府のグリーン成長戦略改訂案において、原子力発電を「最大限活用していく」との表現が削除されたことに対する知事の見解を伺うとともに、エネルギー基本計画の見直しに向けた国への働きかけについて、所見を伺う。

デジタル化について

- ・ 福井県DX推進プログラムが目指す県の姿を伺うとともに、DXの推進によって県民の生活をどのようにして魅力的なものに変えていくのか、所見を伺う。

民主・みらい 辻 一憲 議員



知事の政治姿勢について

- ・ 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について、市町や大学、企業、さらには県による接種が進められる中、県内における効率的なワクチン接種体制をどう確立するのか、知事の所見を伺う。

福祉行政について

- ・ ヤングケアラーに関する全国調査における、県内のヤングケアラーの実態について伺うとともに、今後、関係機関がどのように連携し、支援体制を構築していくのか、所見を伺う。

一般質問

県会自民党 清水 智信 議員



- ・ 人口減少対策について
- ・ 空きテナントを活用した消費喚起策について
- ・ 農産物のブランド化、販路拡大について
- ・ eスポーツについて

県立大学に文系の受け皿を、又県全体で学生の受け皿を作るべきと提言しました。

県会自民党 兼井 大 議員



- ・ アフターコロナの県政について
- ・ 移住促進政策について
- ・ 県民目線の情報発信について

人口急減地域と移住者をつなぐ「地域づくり事業協同組合」について質した。

県会自民党 斉藤 新緑 議員



- ・ ワクチンの危険性について

PCR検査の陽性者が感染者という訳ではない。ワクチンの危険性を検証する事を求めた。

民主・みらい 野田 哲生 議員



- ・ 福井駅周辺の将来像について
 - ・ マイナンバーカード普及について
 - ・ 福井外環状線道路の計画について
 - ・ 新日野川橋（仮称）の計画について
 - ・ 公立高校の情報教科教員について
- あと少しの期間頑張って、マスクなしの笑顔で会える生活に戻りましょう！

一般質問

公明党 西本 恵一 議員



- ・ヤングケアラーへの支援について
- ・夜間中学設置について
- ・キャリア教育について
- ・越美北線の維持・活性化について
- ・新型コロナウイルス対策について

人知れず困難な生活を送っているヤングケアラーの早期把握を要望。

無所属 細川 かをり 議員



- ・SDGsとエシカル消費について
- ・地産地消と伝統工芸等
- ・コロナ禍の女性への影響と留意点について
- ・生理の貧困
- ・子どもの健全育成について

エシカル（倫理的・道徳的）消費を推進し、社会的課題解決に少しでも寄与を！

県会自民党 山本 建 議員



- ・北陸新幹線県内開業に向けた取組と並行在来線
- ・県庁内の事業連携
- ・県産農林水産物の機能性を活用した商品開発
- ・県立学校のプールの利活用

引き続き地域鉄道の利便性向上に努めます。

県会自民党 長田 光広 議員



- ・新型コロナウイルス感染症対策について
- ・再生可能エネルギーの導入拡大について
- ・拉致問題について
- ・福井の米づくりにについて
- ・県立高校の魅力化について

コロナ対策は勿論、アフターコロナの福井の成長戦略へ全集中で頑張ります！

民主・みらい 渡辺 大輔 議員



- ・若手職員によるチャレンジ政策提言について
- ・里親委託の推進について
- ・重度障がい者用グループホームの開設について
- ・ポストコロナに向けた観光促進策について
- ・学校教職員のワクチン接種について

里親推進、ポストコロナの観光支援策などを議論しました。

県会自民党 田中 三津彦 議員



- ・えちぜん鉄道小舟渡駅付近の土砂崩れの復旧
- ・道路施設の老朽化対策
- ～県が管理する最古の橋・小舟渡橋
- ・データセンターの誘致について
- ・クマ、サル等の出没への対策について

クマ・サル等の出没対策は、更なる強化が必要です。

県会自民党 松崎 雄城 議員



- ・農業の効率化と担い手不足について
- ・災害対策・防災について
- ・人口減少について

新たな農業のあり方と担い手不足の解消、河川防災などについて伺いました。

日本共産党福井県議会議員団 佐藤 正雄 議員



- ・福井県の鉄道危機と交通について
- ・コロナ対策について
- ・日本初の老朽原発再稼働について
- ・教育行政について

在来線特急廃止・敦賀駅で乗り換えでは県民は不便になる。乗り換えなしで！

県会自民党 小寺 惣吉 議員



- ・高校教育について
- ・農業行政について
- ・ふるさと納税について
- ・幹線道路の大雪対策について

県産米輸出拡大を目指す。
全国からふるさと納税で母校応援を！

県会自民党 山浦 光一郎 議員



- ・デジタル技術を使った経済刺激策や県の情報発信について
- ・ブランド戦略の条例制定について
- ・再エネ産業の誘致と支援について
- ・越美北線や小浜線の便数の減少対応策について

コロナワクチン職域接種を進める回答をいただき、それを深めていきます。

県会自民党 島田 欽一 議員



- ・行政のデジタル化、個人情報保護について
- ・環境問題について
- ・奨学金制度について

安心して、大学に通えるように奨学給付金の情報提供につとめる。

民主・みらい 北川 博規 議員



- ・教員確保について
- ・医療的ケア児への支援について
- ・サイバー犯罪への対応について

答弁内容の実効性に注視し、しっかりと追跡してきたいと思います。



審議の様子は
YouTubeを
ご覧ください

予算決算特別委員会

福井県議会だより 第33号 | 5

民主・みらい 西畑 知佐代 議員



- ・女性活躍支援について
- ・海岸の漂着ごみについて

企業での女性活躍だけでなく、地域社会で活躍する女性リーダーを育てたい。

県会自民党 関 孝治 議員



- ・教職員の実態について

子どもは大事！

県会自民党 大森 哲男 議員



- ・新型コロナウイルス感染症対策について
- ・県都のまちづくりについて
- ・発達障がい者の就労の課題について

「感染対策特別地域」指定については、実効ある特別な対策とセットで！

県会自民党 西本 正俊 議員



- ・土地利用規制法について
- ・福井県・原子力発電所の立地地域の将来像に関する共創会議について
- (1)嶺南Eコースト計画
- (2)デコミッションングビジネス

共創会議委員に小浜市と若狭町が参加する必要性について県の認識を資した。

県会自民党 田中 宏典 議員



- ・県政全般について

エネルギー基本計画 国は原子力の未来を明確に示せ！

予算決算特別委員会では、山浦 光一郎 議員、長田 光広 議員、細川 かをり 議員、田中 三津彦 議員、力野 豊 議員、辻 一憲 議員も質問を行っています。

代表質問、一般質問を行った議員は、この欄には掲載していませんが、審議の様子は、議会ホームページからYouTubeでご覧になれます。

◆本会議・委員会の傍聴のお知らせ

本会議の傍聴は、当日の先着順です。議事堂2階の傍聴席入口前で傍聴券を受け取り、入場してください。傍聴席には、質疑等の内容を文字データでお知らせするモニターを配置しています（代表質問および一般質問）。

委員会の傍聴は、各委員会開催日の3日前（土・日・祝日を除く）の正午までに申込みをしてください。傍聴希望者が定員を超えたときは抽選となります。

詳細は、福井県議会のホームページをご覧ください。
HP：https://www.pref.fukui.lg.jp/gikai/

◆9月定例会 会期日程予定

9月 6日(月)	開会
9月 9日(木)	代表質問
9月14日(火)・15日(水)	一般質問
9月17日(金)	常任委員会(総務教育)
9月21日(火)	常任委員会(厚生)
9月22日(水)	常任委員会(産業)
9月24日(金)	常任委員会(土木警察)
9月29日(水)・30日(木)	予算決算特別委員会
10月 6日(水)	閉会

福井県議会Facebookを開設しました

福井県議会の活動について県民の皆様により関心を持っていただけるよう、Facebookを開設しました。県議会の会議や議員の公的な活動等について広く情報発信していきますので、ぜひご覧ください。

[県議会Facebook]

URL：https://www.facebook.com/fukuikengikai/



常任委員会

総務教育常任委員会

「福井県核燃料税条例の制定について」、「特定地域等の振興を促進するための県税の課税の特例に関する条例の一部改正について」などの6議案について、審査を行い、原案どおり可決しました。

所管事務の調査では、「県立高校の魅力化」について、生徒一人一人の多様なニーズに対応した新学科・コース設置への質疑を行いました。このほか、行政のDX推進の課題、インターハイ開催前のワクチン接種、「北陸新幹線開業における特急存続」および「在来線減便」などについて議論しました。



県立高校の新学科・コース設置（勝山高校）の検討

厚生常任委員会

「福井県保護施設等の設備および運営の基準に関する条例の一部改正について」、「福井県介護保険財政安定化基金条例の一部改正について」、「損害賠償額の決定および和解」の3議案について審査を行い、原案どおり可決しました。

また、請願の審査も行い、「分煙環境整備に関する請願」について採択しました。

所管事務の調査では、「次期エネルギー基本計画」、「大雪対策」、「原子力災害時の社会福祉施設の避難先」、「犯罪被害者支援」、「海岸漂着物の処理」、「新型コロナウイルス感染症対策」、「ドクターヘリの運航状況」などについて議論しました。



ドクターヘリの患者搬送訓練の様子

産業常任委員会

「福井県中山間地域土地改良施設等保全基金条例の一部改正について」の議案について審査を行い、原案どおり可決しました。

また、請願の審査も行い、「『新型コロナ禍による米の需給悪化の改善と米価下落の歯止め策』についての意見書提出を求める請願」については不採択としました。

所管事務の調査では、「並行在来線の特急存続の断念による観光への影響」、「中小企業向けの新型コロナワクチン接種」、「アンテナショップの候補物件」「いちほまれの生産、広告宣伝」などについて議論しました。



県のアンテナショップ 食の國 福井館

土木警察常任委員会

所管事務の調査では、「道路整備プログラム（案）中間とりまとめ」について質疑を行うとともに、「千葉県八街市の小学生が犠牲となった飲酒運転事故」、「信号機のない横断歩道での歩行者優先」、「防犯カメラの設置方針」、「反射材の普及・着用」、「越前市の学校での傷害事案」、「道路雪対策」、「県単公共事業」、「道路整備プログラムの地域バランス」、「中部縦貫自動車道大野油坂道路の進捗把握」などについて議論しました。



手上げ横断の様子



本委員会に付託された令和3年度福井県一般会計補正予算などの2議案について審査を行った結果、原案のとおり可決しました。

審査の過程であった主な質問や意見は次のとおりです。

○特急存続・地方鉄道の在り方について

JRが表明した小浜線、越美北線の減便方針について、現状と今後の県の対応についてただしたのに対し、「減便については、性急かつ恒久的な措置で断じて容認することはできない。最終的に減便をしないという話にはなっていないので引き続き訴えていきたい。また、『乗って残す運動』も非常に重要であり、市町とともにやっていきたい」との回答がありました。

また、地方創生を促進し地方の将来にわたる安定的な維持・存続を図るためには、国の責任において地方鉄道の在り方を示す必要があるのではないかとただしたのに対し、「JRを含む地方鉄道を重要な社会インフラとして維持していくため、法制化も判断の範疇に含めて新たな支援制度を講じるよう、国に訴えていきたい」との回答がありました。（なお、閉会日に「地域鉄道の存続に向けた国の更なる支援を求める意見書案」が上程、可決されました。）

次に、特急存続について、敦賀での乗り継ぎの利便性は一定程度確保されると考えるが、特急存続ができない場合の代替案として、沿線地域で損なわれる利便に対しては十分ではないとただしたのに対し、「特急存続については、運行上の制約や並行在来線会社の収支悪化、利用料金の上昇など様々な課題があり難しい。新幹線の開業効果を最大化し、県民の利便性をできるだけ損なわないよう知恵を絞っていきたい」との回答がありました。

また、議会の提案や地元からの要望も念頭に、沿線自治体の合意が得られる方策を検討し、9月定例会で報告されるべきとただしたのに対し、「沿線市町とも話し合った上で検討し、9月定例会で並行在来線会社の経営計画と併せて示したい」との回答がありました。

○原子力・エネルギー政策について

次期エネルギー基本計画策定の議論の中での原子力の位置づけと今後の見通しについてただした

のに対し、「国の総合資源エネルギー調査会の基本政策分科会や原子力小委員会では、2050年のカーボンニュートラルを考えた時に、原子力発電なしで乗り切れるとは考えられないという意見が多い。また、7月2日に議長とともに梶山経済産業大臣と面談した際、大臣は原子力の必要性を十分認識されていた。県としては原子力の位置づけとそこに至る道筋を明確にするよう、立地地域や県議会とともに求めている」との回答がありました。

このほか、福井県・原子力発電所の立地地域の将来像に関する共創会議での議論の状況や方向性、今後の見通しなどについて意見が述べられました。

○その他

新型コロナウイルスワクチン接種、土砂災害警戒区域等の対策の状況、流域治水の現状と対応、福祉施設の広域避難、災害からの学び、通学路の安全対策、県都のまちづくり、道路整備プログラムの必要性和狙い、DXの推進、県民衛星すいせんのデータ利活用、さかほまれの販売促進、女性活躍支援、発達障がい者の就労、核燃料税の現状と課題など広範多岐にわたり、理事者の見解と対応をただしました。



県内で運行されている特急

特集 地域鉄道の維持・活性化に向けた取り組み

6月定例会では、福井県内の地域鉄道について、次の2つの課題が大きな争点となり議論となりました。

課題1：JR西日本が検討を表明した小浜線と越美北線の減便

JR西日本は、コロナ禍による経営悪化によりローカル線を支えることができなくなったとして、秋のダイヤ改正において減便を前提とした運行本数の見直しを表明しました。両路線は、地域住民の生活や産業を支える重要な交通機関であり、また、北陸新幹線の敦賀開業に向けていかに二次交通の利便性向上を図るかが課題となります。

課題2：北陸新幹線敦賀開業後の特急存続を断念した県の方針

北陸新幹線開業後、敦賀駅において乗り換えが発生することから、利用者の利便性確保が必要となります。県はこれまで、JR西日本に対して並行在来線区間での特急（しらさぎ、サンダーバード）の存続を求めてきましたが、6月定例会において、運行上の制約や、並行在来線の収支の悪化等を理由に特急存続を断念する方針と並行在来線での快速運行といった代替策を示しました。

福井県議会の対応

地域鉄道は通勤や通学といった日常の移動手段として沿線地域の人々の暮らしを支えています。また、北陸新幹線の敦賀開業を控える本県にとって、観光誘客などに寄与する極めて重要な交通機関です。福井県議会では、JR小浜線と越美北線の運行本数等の維持を目指すとともに、地域鉄道の維持・活性化に向け積極的な活動を行いました。

○委員会等での議論

6月定例会開会日に「JR小浜線および越美北線の維持・活性化について国の積極的な関与を求める意見書」を全会一致で可決。また、閉会日には、「地域鉄道の存続に向けた国の更なる支援を求める意見書」を全会一致で可決し、並行在来線も含めた地域鉄道が将来にわたり存続できるよう、法整備等も含めた支援策を求め、国の関係機関に提出しました。

○国に対して意見書を提出

2つの課題に関し、6月定例会中に総務教育常任委員会協議会を開催し、JR西日本から説明を求めるなど調査を行いました。その後の予算決算特別委員会においては、特急存続断念に関し、議員からJR新快速の敦賀以北への乗り入れなどが提案され、改めて県に対して特急存続の代替策を9月定例会で示すよう求めました。

○「地域鉄道の維持・活性化を目指す議員連盟」の設立

JR西日本の運行本数の見直しの表明を契機に、会派を超えて全議員が加盟する議員連盟が設立されました。そして、JR小浜線、越美北線の便数維持に向け、県や沿線市町等とともに国やJRへの要請活動が行われました。

○令和3年7月7日 国土交通省に要請 ○令和3年7月16日 JR西日本本社に要請



JR小浜線



JR越美北線

9月定例会に向けて

地域鉄道は地域を支える社会的インフラとして維持していくことが必要です。

今後、JR小浜線と越美北線について、JRに対し新幹線開業に向けた観光振興、地域振興のため、市町と連携した取り組み等を求めるとともに、国に対しては地域鉄道の存続のための新たな支援制度等を求めていく必要があります。

また、特急存続の代替策については、県は沿線自治体の合意が得られる方策を検討しており、9月定例会では並行在来線の経営計画と併せて議論される見込みです。

「福井県議会だより」へのご感想をお聞かせください。

福井県議会ホームページの「福井県議会だよりアンケート」のページから、ご感想、ご意見を願います。



発行 福井県議会広報会議

〒910-8580 福井市大手3丁目17-1

福井県議会 議会局総務課

電話：0776-20-0605 FAX：0776-20-0674

HP：https://www.pref.fukui.lg.jp/gikai/